

塩尻市都市計画マスタープラン

全体構想の概要

塩尻市では令和 6 年度中の公表を目指して「塩尻市都市計画マスタープラン」の見直しを進めています

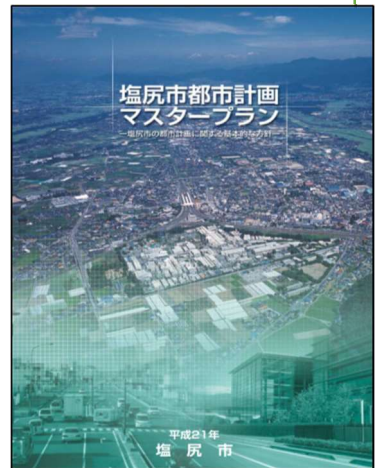
1 「都市計画」と「都市計画マスタープラン」とは

● 「都市計画」とは

➔土地の使い方のルール、道路や公園等の配置、計画的な市街地整備事業を定めるものです

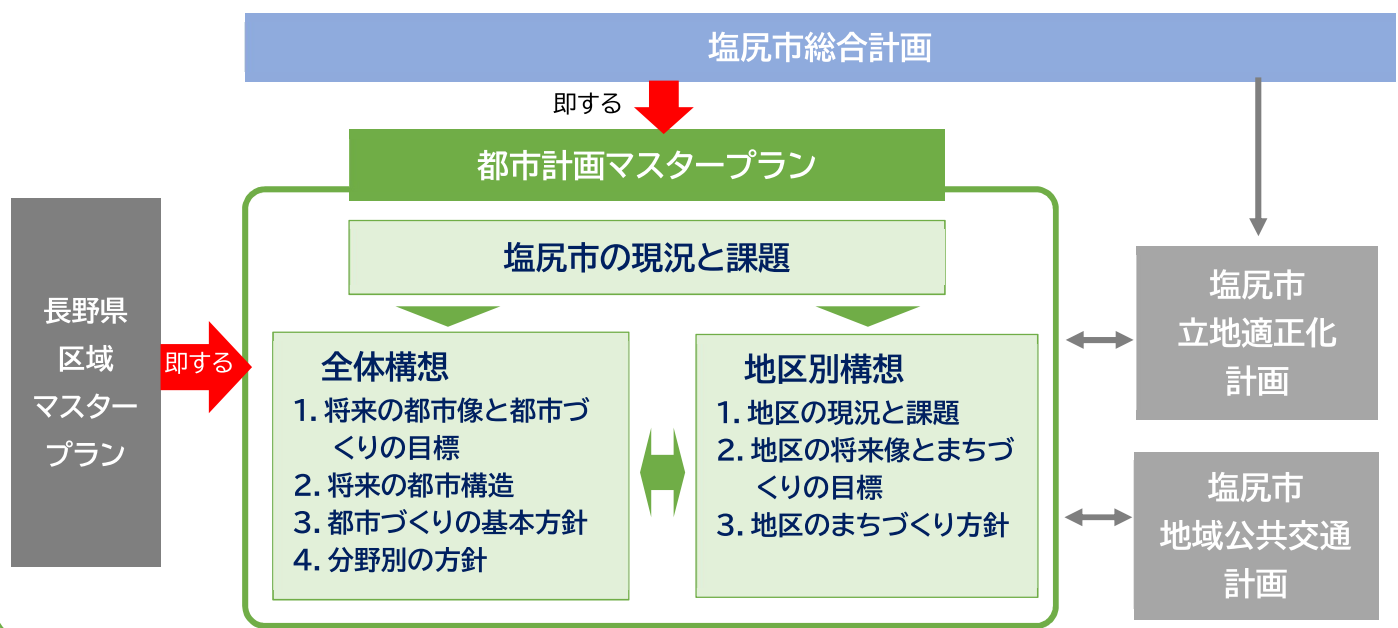
● 「都市計画マスタープラン」とは

- ➔市町村が、市民の意見を反映して、将来のまちのあるべき姿やまちづくりの基本的方向性をわかりやすく示すもの
- ➔おおむね 20 年後の都市の姿を展望し、個別の施策内容はおおむね 10 年後を目標として定めます



2 「都市計画マスタープラン」の構成

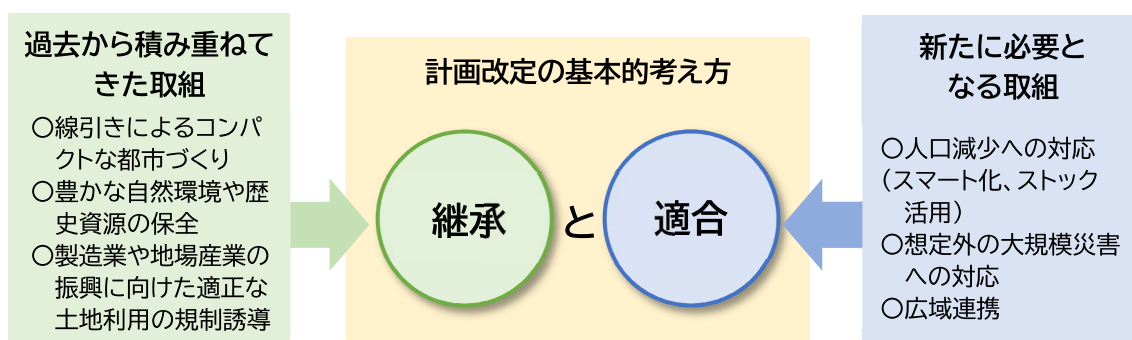
- 都市全体を対象とする「**全体構想**」、市内 10 地区毎に定める「**地区別構想**」によって構成され、塩尻市総合計画等に即して、市の都市計画の基本方針を定めます



3

今回の改定の視点

- 過去から積み上げてきた取り組みを**継承**しつつ、新たな時代に求められる都市像へと**適合**させることを基本に計画を改定します



4

タウンミーティングで確認したい事項

- 今回のタウンミーティングでは、地域の特性を踏まえたまちづくりの目標や方針を定める「地区別構想」の策定にあたって、地域の皆さんの声を広く聴くものです
- 地区別構想では、最終的には地区が有する強み・弱みを整理した上で地区の抱える課題を抽出し、その課題を踏まえた地区の目標やまちづくりの方針を定めたいと考えています
- 数値的な事実等から、市で地区毎の強み・弱み、地区の目標等を暫定的に設定しますので、そこに対して皆さんが感じていることを述べていただき、案を練磨したいと考えています

吉田地区

地区別構想の骨子

1

地区の歴史と成り立ち



- ➡昭和 8 年に JR 篠ノ井線の新駅として広丘駅が開業
- ➡昭和 34 年の塩尻市の成立や、昭和 39 年の松本・諏訪新産業都市指定以降、急速に宅地化や工場立地が進展し人口も急速に増加
特に、吉田団地、広丘吉田団地、吉田原団地等の造成をはじめ、市の市街化計画による宅地造成により人口が急増
- ➡地区で管理していたグラウンドを昭和 53 年に長者原公園として整備
- ➡昭和 55 年から 3 年をかけてえびの子池がえびの子水苑に整備される
- ➡昭和 57 年に田川高等学校が開校
- ➡昭和 61 年から国道 19 号広丘野村～広丘吉田間の 4 車線化工事が開始され、平成 24 年に事業区間が全線 4 車線開通
- ➡昭和 63 年には長野自動車道塩尻北インターチェンジが開設
- ➡人口増加によって区の運営にも支障が生じてきたことを踏まえ、平成 6 年 4 月 1 日に広丘地区から分離して新たに吉田地区が誕生
- ➡平成 26 年に長者原公園に吉田西防災コミュニティセンターが建設

2

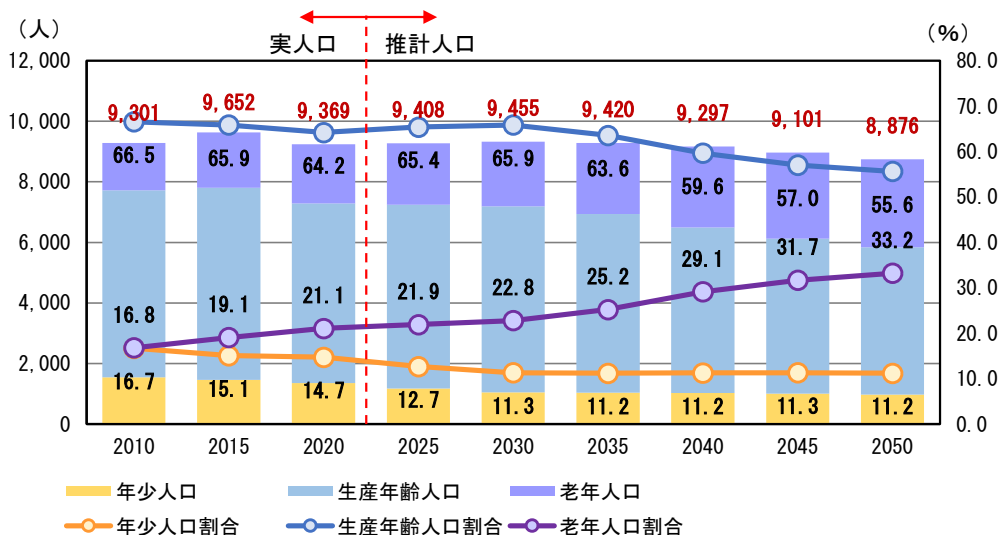
地区の概要



- 地区面積約 350ha
- 地区の全域が都市計画区域、約 55%が市街化区域

- 地区人口は 9,369 人(R2 年)、過去 10 年間で 68 人の増加
- 高齢化率(65 歳以上人口割合)は市内で最も低く約 21.1%程度

●人口の推移



吉田地区

地区別構想の骨子

3

地区の課題とまちづくりの目標



地区の強み



塩尻北ICや村井駅へのアクセス性が良く、交通利便性が高い

市街地に近接する田川沿いの良好な田園風景

土地区画整理事業で整備された良好な住宅地

地区の弱み



既成市街地内の一部にみられる狭あい道路や行き止まり道路

市街地内の一部区域に分布する浸水ハザードエリア

「強み」を生かす

「弱み」を克服する

地区の課題

松本市との連続性を考慮した適切な土地利用及び道路の配置が必要

緑豊かで良好な住環境の保全と既成市街地内の狭あい道路改善等が必要

地区内の災害リスクを考慮した防災対策の検討が必要

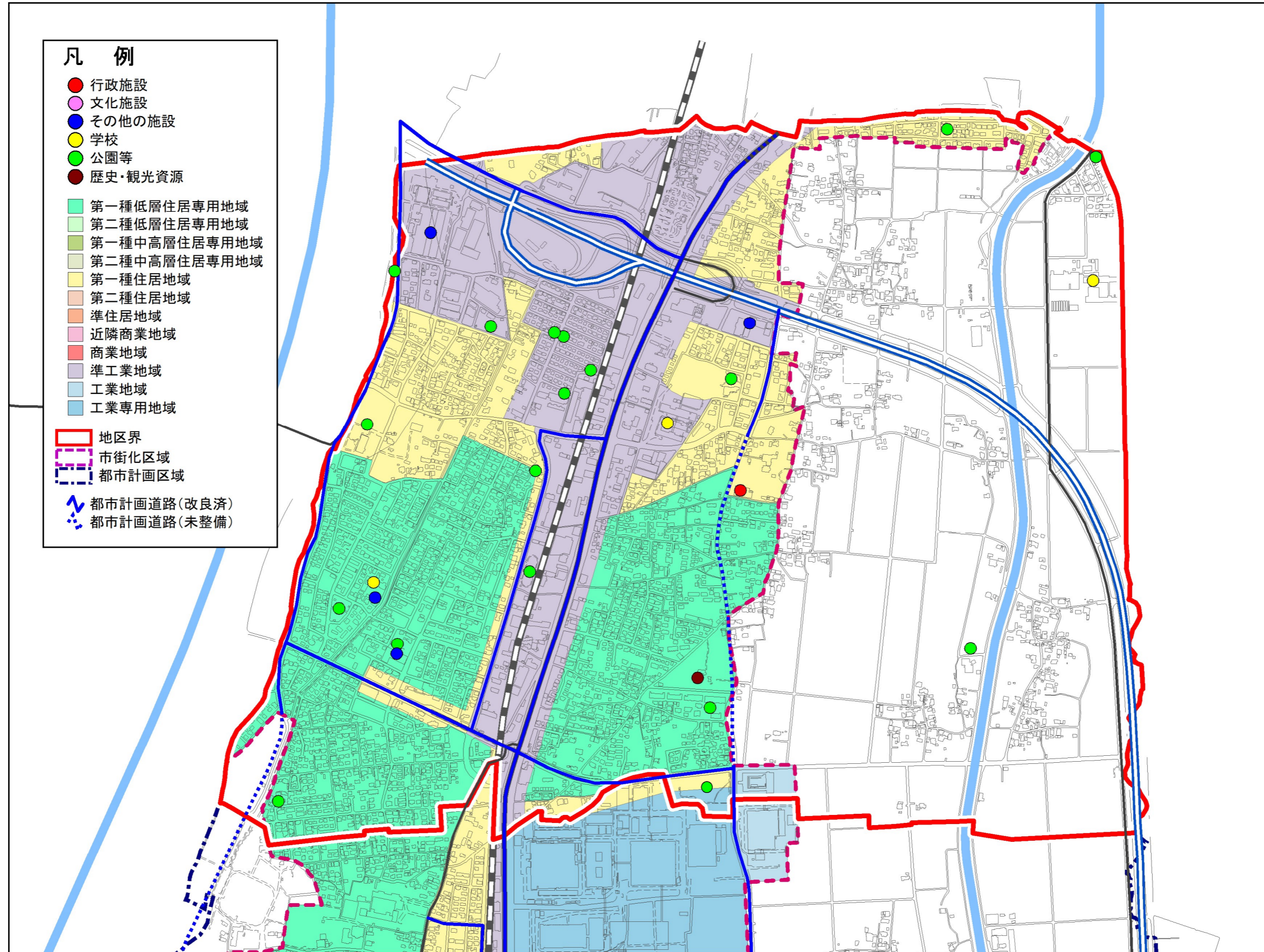
まちづくりの目標

立地特性を生かした良好な居住環境・業務機能を維持・形成するまちづくりを進める

村井駅周辺の市街地と一体性を高めるまちづくりを進める

ハード対策・ソフト対策を組み合わせることで災害に対応できるまちづくりを進める

●地区の主な施設・資源の分布



●地区の災害ハザード

